●HOW TO USE OF THE TOOL

手術器具の使い方

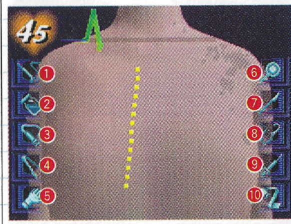
外科医の命、手術器具。ここでは『超執刀 カドゥケウス』で執刀の際に使用する10個の手術器具と、重要な情報をもたらしてくれるコールサインについて紹介する。どの器具が何の処置に使えるのかをしっかりと覚えておこう。

器具の並びを覚えよう

まずは10個の器具がどこに置かれているかを覚えよう。手術器具は下画面の左右に5個ずつ、計10個が配置されている。左側には上からレーザー、ヒールゼリー、ドレーン、ピンセット、手（超執刀）。右側には上からスキャナ、メス、縫合キット、注射器、保護テープが並べられている。

医師であるプレイヤーは、患者の状態や処置方法に応じて、これらの器具を選択し使用していかなければならない。手術中は1分1秒を争うため、「メスはどこかな？」などと悩んでいるヒマはない。必要な器具をすぐに選択できるようにしておこう。なお、器具はふたついっぺんに使うことはできない。

■器具のおかれている場所と名前



❶レーザー
❷ヒールゼリー
❸ドレーン
❹ピンセット
❺手（超執刀）
❻スキャナ
❼メス
❽縫合キット
❾注射器
❿保護テープ

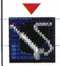
器具は消耗品です

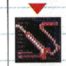
手術器具は使えばなくなる消耗品。使い切ってしまったら、補充されるまではその器具を使えない状態で手術を進めていくことになってしまう。器具の消耗度合は、各器具の横に表示されているゲージを見ることで確認できる。

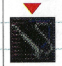
たとえばレーザーを使用し続けると、レーザーアイコンの横に描かれているゲージが減り、アイコンが赤になると残量はわずか、グレーになると使用不可となってしまう。大事な局面でその器具を使えないなどという状態にならないよう、器具の消耗度合を確認しながら手術を進めることも、医師の重要な務めとなる。

■消耗度合の見方


…使いはじめの状態


…半分くらい使っている状態


…残り少ない状態


…使い切った状態

右は右、左は左のクセをつけよう

右利きのプレイヤーは右手に、左利きのプレイヤーは左手にタッチペンを持って手術を進めていることだろう。基本的には片手持ちで手術を進めてもいい。しかし、手術が進むにつれ、1秒の回復剤投与の遅れや、1秒の器具の持ち替えの遅れが許されなくなり、手術を成功させることが難しくなってしまう。左に並ぶ器具は左手のタッチペンで、右に並ぶ器具は右手のタッチペンで選択できるようにしておけば、器具を持ち替えてから使用するまでの時間を短縮でき、手術をスムーズに進められるようになる。

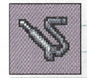
■執刀の構え

左側の器具は左のタッチペンで選択できるようにしていこう。



右側の器具は右手のタッチペンで選択し、処置を行なおう。

※上記の説明は右利きの場合の説明です。

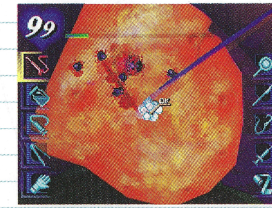


…レーザー

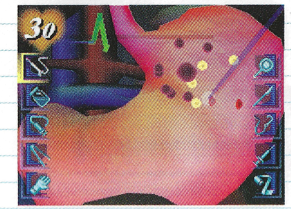


レーザーはおもに、腫瘍、ポリープの焼却や、寄生体を焼き殺す際に使用する器具だ。レーザーを持った状態で下画面をタッチすると、タッチした部分にレーザーが照射される。タッチし続けることでレーザーを継続して当て続けられるが、健康な臓器に照射し続けると傷をつけてしまうので注意。傷をつけてしまった場合、ヒールゼリーでレーザー痕を治療しよう。レーザー痕から血が噴出して血だまりができてしまったら、ドレーンで血液を吸引してからゼリーを塗ること。

おもな用途 小さな腫瘍や寄生体の焼却

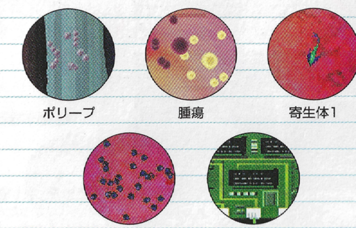


レーザーを当てたい部分にタッチし続けることで、患部や寄生体を焼き殺すことができる。

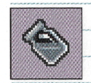


照射をし続けると内蔵に穴がっ！ 血が噴きだすまえにヒールゼリーで治療すること。

■対処例



ポリープ　腫瘍　寄生体1
寄生体2　チップ

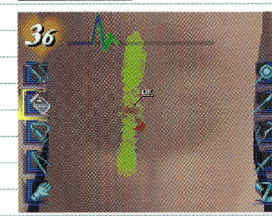


…ヒールゼリー



メスを入れるまえや、縫合が終わったあとの消毒だけでなく、縫合の必要のない傷口をひと塗りで完治させられる魔法の薬ヒールゼリー。ほかにも、裂傷に塗ることで出血量を減らしてバイタルの低下を抑えたり、腹膜上を動き回る寄生体の動きを遅くさせるときなどにも使用していく。使い方は、塗りたい場所にタッチしてペンをスライドさせるのだが、上下にスライドさせるのではなく、上から下、上から下と1回スライドさせたら、またもとの地点にタッチし直して塗るといい。

おもな用途 消毒や小さな裂傷、レーザー痕の治療。寄生体の進行妨害

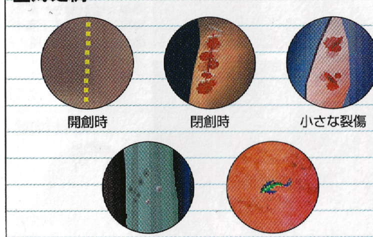


縫合終了後の血のにじんでいる傷口にはOK！がでるまでヒールゼリーを塗りつける。



寄生体に塗ると、動きを遅くさせられる。このスキにほかの処置ができるぞ。

■対処例



開創時　閉創時　小さな裂傷
レーザー痕　寄生体